

2016

Annual Report



Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション

Contents

代表理事挨拶	1
活動地紹介	2
海外活動報告	4
ヴァヌアツ共和国タンナ島 2016年7月6日～18日（本隊10日～18日）	4
フィリピン共和国カオハガン島 2016年11月19日～23日	10
フィリピン共和国カオハガン島 2017年2月10日～15日	14
学術報告	18
国内活動報告	19
国際理解教育～ヴァヌアツ学習を通して～	20
国際文化交流	23
参加者感想文	24
海外活動参加者募集のお知らせ	32
ジャパン デンタル ミッションについて	33
協賛企業	34
2017 年度活動予定	35
理事紹介	36
監事紹介	36

南十字星⇒

代表理事挨拶

JDMの活動も早いもので34年になりました。当時は、ヴァヌアツ共和国マレクラ島から活動が始まり、15年後にタンナ島へヴァヌアツ政府（保健省）の依頼により活動先をシフトしました。それから、16年間のタンナ島でのJDMの活動はヴァヌアツ政府に認められ新聞などにも掲載され、現地の小学校や病院から数々の感謝状などを頂きました。

昨年の保健省と教育省とのミーティングでは、他の島（ペンテコスト島とエピ島）にも行って欲しいとの依頼がありました。今年の7月の活動ではそれぞれの島にリサーチに行く予定です。

ペンテコスト島は、世界的に有名はバンジージャンプ（現地では成人の儀式）発祥の地であります。ヴァヌアツは約83の島々から成り立つ共和国であり、医療に関してはまだまだ手つかずな状態が随所に見受けられます。

エピ島は首都のポートヴィラの北の方向に位置し、比較的近い所にあります。まだまだ未開な所が多いです。今年、ポートヴィラ・ロータリークラブと現地のボランティア団体で学校建設のプロジェクトがあり、そのプロジェクトの一部としてUS\$5,000をJDMが3月に寄付を行いました。近々建設が始まりますが、完成が待ち遠しいものであります。

一方、フィリピン共和国カオハガン島での活動も20年にわたり年2回、11月と2月に行っています。昨年の2月から、現地サマル島在住の中島様と妻のミラ様ご夫婦がボランティアとして活動に参加して頂いています。特にミラ様は現地語で患者様との通訳をして頂き、より一層島民とのコミュニケーションがスムーズになり、随分助かっています。

また、JDMの活動を見て、カオハガン島のエッジ・ナノイが歯科医師になり、島民の為に尽くしたいと言ってから5年になります。現在はセブの歯科大学に入学して3年生になっています。入学してからの学費と生活については、私自身を含め、皆様のあたたかい御寄付で全てサポートしています。近い将来彼女が歯科医師となり、いろんな分野で活躍してくれることを期待しています。

2016年度の活動について、ヴァヌアツではJDMメンバーの伊藤玲先生の娘さん（小5）、フィリピンでは坂口智計先生の息子さん（小6）がボランティアとして参加して下さいました。お二人共、カルテ記入のアシスタント、荷物運び、掃除、薬の管理、学校検診の準備など、一生懸命働いてられました。特に、現地の子ども達と一緒に遊び、言葉の壁を越えて友達として交流されていました。

また、働く父親の背中を見て、何かを感じたと思います。彼らの感想文には、両親に対する感謝の気持ちが込められていました。

このような活動が生きた教育であり、青少年育成であります。

我々JDMはこれからもこのように、歯科医療と教育の発展の為、引き続き努力して参りますので、皆様のご支援、ご理解、宜しくお願い致します。



代表理事 澤田 宗久

活動地紹介

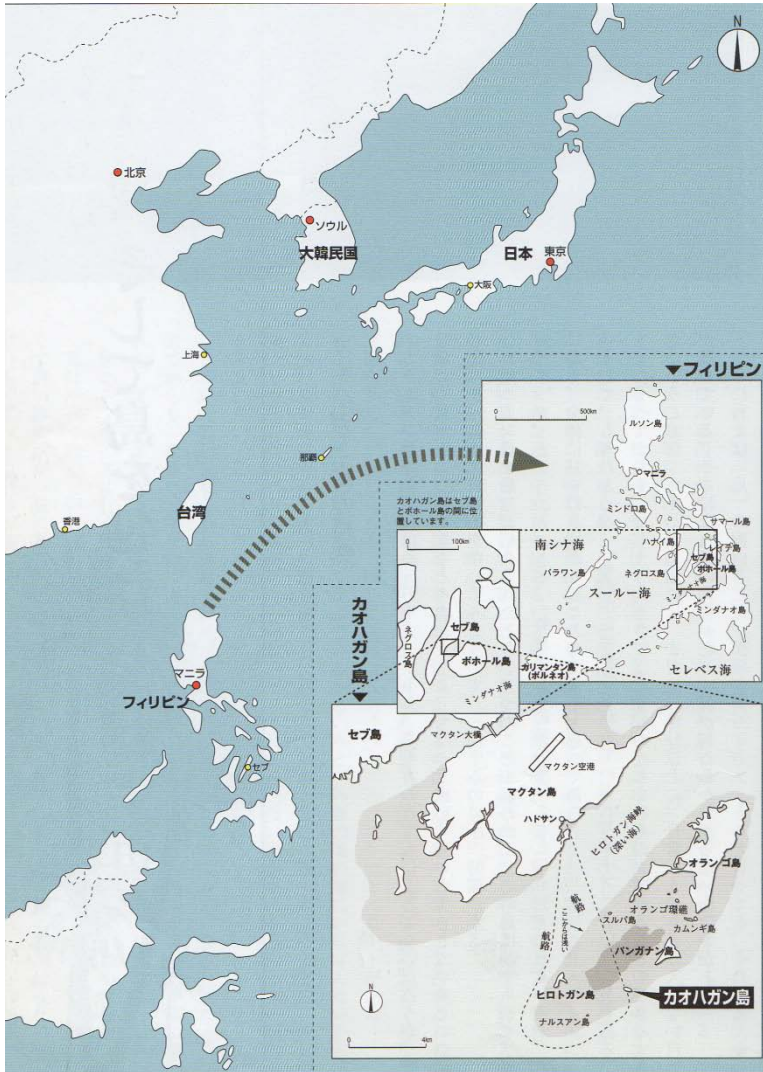


ヴァヌアツ共和国



紹介：約83の島々から成り立つ
人口：約24万人
首都：ポートヴィラ（エファテ島）
言語：ビシュラマ語、英語、仏語
通貨単位：バツ（1バツ＝約1円）
宗教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：71歳
生産物：コプラ（ヤシ）、牛肉
活動地：タンナ島

フィリピン共和国



紹介：7,109の島々から成り立つ
人口：約8,857万人
カオハガン島の人口は約450名
首都：マニラ (ルソン島)
言語：フィリピン語、英語、ビサヤ語
通貨単位：フィリピンペソ (1ペソ=約2.5円)
宗教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：男65歳、女70歳
生産物：バナナ
活動地：カオハガン島



海外活動報告

ヴァヌアツ共和国タンナ島

2016年7月6日～18日（本隊10日～18日）

（左から）

小西 あゆみ	（歯科衛生士）
井口 善貴	（歯科医師）
沢田 宗久	（歯科医師）
伊藤 玲	（歯科医師）
伊藤 ひなた	（ボランティア）
川本 麻央	（歯科医師）
Russel	（歯科医師：首都にある病院）
大西 富子	（歯科衛生士）
関根 淳	（歯科医師）



活動内容

7月6～7日雨（シドニー）

前乗り組メンバー（小西、井口大阪組/伊藤、伊藤ひなた、川本東京組）が羽田空港で合流後、JDM本部からの活動物資、医療器具など6点の荷物を受け取り、無事にチェックイン。

今回は、荷物制限の超過無くスムーズにシドニー便に乗り込むことができた。

事前に、旅行代理店担当者様よりシドニーからポートビラまでの乗継便が、遅延出発するとの報告があり、シドニーで8時間程の待ち時間が生じることとなった。

24時間かかってポートビラに到着。フライト遅延にも関わらず現地保健省のRory氏と現地VCH歯科医師Russel氏が空港で出迎えて頂き、ホテルまで心良く送迎して頂いた。

PM10時にメラネシアンホテルに到着。長時間のフライトで皆疲れ、明日に備え即就寝。



7月8日 晴れ

午前中は、日本の支援で設立された首都ポートビラの総合病院VCH(Villa Central Hospital)の見学。

首都ポートビラの歯科の現状を知る。また、JDMより持参したドネーションを心良く受け取って頂いた。診療ユニット2台でDr 3～4名で約50人/日を診療しているとのこと。主な診療内容は、抜歯、充填処置、義歯製作などである。機材に限界があり他の治療メニューを増やすことは困難である様子。遠方から来られる患者も多く抜歯によって痛みだけでも改善してあげることができることでも大きな意味があると現地Drは言う。今、VCHの歯科に必要なものは何か？と聞くと『患者の待ち時間が長く、待ち時間に暇つぶしできるようなTVシステムや予防プレゼンテーションできるようなプロジェクターなどのシステム環境が欲しいとのことであった。

なかなか、歯科への予算配分が少なく、スムーズに機材を購入できる状況では無いようであるとのこと。材料に関しては、ニュージーランドから期限切れの材料を支援してもらっているとのこと。

また、オーストラリア・ニュージーランドなどの他国から機材を発注しても、直ぐには届く環境に無く困ることもあるとのこと。

JICAより派遣されている医療機器の修理担当のエンジニア：上田さんとVCHでお話できる機会があり、医療機器の修理の状況やJICAの活動、現地での生活など興味深く聞かせて頂いた。

午後は、現地保健省のRory氏の案内でNCD(Non communicable disease:非伝染性疾患)の予防推進パレードに参加。その後、JICA上田さんの案内でセントラルマーケットなど街中を散策。

7月9日 晴れ

1日エファテ島を散策。



7月10日 晴れ

JICAのメンバー4名と交流ランチ会。

JICAでのそれぞれの活動内容や活動経験を興味深く聞き、良きご縁を頂いた。

18時に、本体組の大西(Dh)ホテルに到着し前乗り組メンバーと合流。

メラネシアンホテルで夕食。

翌日からのタンナ島での活動に向けてミーティング・事前準備をした。



7月11日 晴れ

AM 10時の便で、タンナ島に向かい11時到着。(タンナ島北部で活動予定のオーストラリアからの医科・歯科共同のボランティア活動チームと出会う。互いの活躍を祈りあった。)

レナケルホスピタルに到着。宿舎へ移動。今回は、サンセットバンガローというバンガロータイプの宿泊施設に泊まることとなった。

昼食は、大西・小西作のバンバンジー風そうめんを頂き、その後、レナケルホスピタルへ戻り診療準備開始。

17時に宿舎へ戻る。夜は寒い。

夕食は、親子丼、味噌汁。

お湯は、出るものの、わずか10秒ほどで水に変わる。

なので、みんなお湯を温めて頭のみ洗う…
バンガローでの食事中に大西 (Dh) が、蜂に刺されるも、
腫れるが異常なし。逆に快調とのこと。



7月12日晴れ

就寝時、やや寒く、寝袋で寝る者もいた。
朝食は、パン、スープ
8時半に宿舎を出発。レナケルホスピタルの診療所の
前には20名ほどすでに並んで待っていた。
9時より診療開始。
13時半時まで診療して、前の芝生で、大西 (Dh) の手
作りおにぎりとお茶で昼食。

14時半から午後の診療再開。17時まで診療した。
宿舎に戻り、たらこ、カルボナーラ、ミートソース、
きのこ野菜の4種類のパスタ、サラミとキャベツの
炒め物、生野菜、を頂いた。
星は、ものすごくきれい！！満点の星空！！南十字星
超きれい！！



7月13日晴れ

朝食は、目玉焼きとスープパスタ、パン。8時半に宿
舎を出発。
初日に比べると受診者の集まりが少ない。12時半で
午前診療終了し、昨年宿泊したエバーグリーンホテル
で昼食。
午前中の診療中に、コンセント差し込み口、電気系統
から爆発音がして、ヒューズが飛んだ。
途中診療停止したものの、コンセント差し込み口を替
えて無事復旧。
午後は、14時半より、診療再開。17時で診療終了。
タンナ島で有名なヤスール火山への見学。19時半に
宿へ帰宅し、夕食は、ラーメンで温まる。





7月14日晴れ

朝食は、チャーハン。8時半に宿舎を出発する予定だったが、迎いのトラックが来ず、徒歩でホスピタルに向かう。

開始前より、10名ほどの受診者が待っていた。後から、大西(Dh)が手作りおにぎりを持参してくれた。後組代表沢田(Dr)と関根(Dr)が首都ポートビラでの会議を終え9時半に合流。

関根(Dr)の奥様寿恵さんをご用意してくれた子供用のおもちゃ、紙飛行機、ロケット風船を関根(Dr)が持参してくれて、診療後の子供達や周辺で遊んでいる子供達にプレゼントした。とても喜んでくれて、楽しく遊んでいた。特に問題なくスムーズに診療できた。



7月15日晴れのち曇

朝食は、おじやとパン。ハーバービュー小学校への検診とドネーション・文化交流会のため、7時半に宿舎を出発。

8時より文化交流会・ドネーション・検診をした。

大西(Dh)は、先に診療を待つ受診者のために検診をラナケルホスピタルで行った。

他のメンバーは、ハーバービュー小学校でドネーション、検診。文化交流している大阪の竹湊(たち)小学校との絵画を交換しあった。



途中、川本(Dr)がレナケルホスピタルでの診療に戻る。追加応援で、伊藤(Dr)がラナケルホスピタルに戻る。

11時頃に、全員ハーバービュー小学校から戻り、全員でレナケルホスピタルでの診療をした。

12時半で午後の診療を終了。

昼食は、海辺のオーシャンビューの食堂で食べた。午後は、14時から診療スタート。17時に片付けして診療終了。

宿舎へ戻る。診療最後の反省会をして今後のJDMの発展や活動の成果を願って就寝した。



7月16日晴れ タンナ島最終日

朝食はパン

宿舎を出発し、チケットの都合上

午前便に伊藤(Dr)、Hinata(V)、代表沢田(Dr)

午後便に井口(Dr)、川本(Dr)、大西(Dh)、小西(Dh)、翌日便に関根(Dr)がバラバラでポートビラに移動した。

メラネシアンホテルにチェックインして、各自土産を買うなり、自由行動。

夜は、JICAのメンバーの3名とJDMメンバーでハーバービューレストラン(中華料理店)で交流会をした。

明日に備えて荷作りをして就寝。



7月18日晴れ

日本時間AM8時にそれぞれ、大阪組・東京組が無事に帰国の途に着く。



7月17日雨のち曇り時々晴れ

早朝より、6名のメンバーでブルーラグーンに向かう。ターザンロープでジャンプを楽しんだ。

メラネシアンホテルに戻り、昼食。

代表沢田(Dr)、関根(Dr)は、保健省のRory氏とランチミーティング。

15時45分に、メラネシアンホテルを出発し、空港へ。メラネシアンホテルにJICAのメンバー上田さんが見送りに来て頂き、またの再会と互いの活躍を祈り握手をして別れた。

空港までのバスでは、今までの活動を振り返りながら何も語らず、行き交う街並みや景色を眺めながら今回のミッションの終わりをそれぞれが感じながら時間が過ぎていった。

ポートビラの空港に到着して、17時55分のニューカレドニア・ヌメア行きに無事に搭乗。



“今回の現地活動で知り合い、ご縁があった方達”

ヴァヌアツ共和国保健省Rory氏

VCH(Villa Central Hospital) 歯科医師Russel氏と同僚の歯科医師、その他VCHスタッフの皆様

首都ポートビラ/メラネシアンホテルスタッフの皆様

ヴァヌアツ共和国JICAメンバー:上田 健史様(医療機器エンジニア)、城 和広様(小学校教諭)、宮西 麻

菜様(保健指導教諭)、荒武 奈都美様(看護師)、上野

里美様(看護教員)、浅見 有香様(看護師)、情野 吉彦

様(教育省/教育カリキュラム)、オーストラリア医

科・歯科医療ボランティア活動チーム、タンナ島レナケルホスピタルのスタッフの皆様・タンナ島現地宿舎 / サンセットバンガローのスタッフの皆様、タンナ島ハーバービュー小学校の校長先生・教諭スタッフの皆様、ヴァヌアツ共和国で私達 JDM の活動を歓迎して頂いた国民の皆様



活動まとめ

天候にも恵まれ、最終日まで、スタッフ全員健康に、不調にならず元気いっぱい活動できた。

蜂に刺されたのが1名。

今回は、事前に JDM の活動を告知する張り紙がレナケルホスピタル内に張り出されていたことで、受診希望者が多く来られた。次回は、マーケットや街中にも事前に告知や張り紙をして頂けたらより多くの受診希望者が集まることと思う。また、学校検診へは、今回は1校のみであった。他の学校関係者の方からマーケットで声をかけられ、検診依頼を受けるが、メンバーを診療部と検診部の2つに分けられるほどの人数ではなかったようで、診療部門を優先することとなった。次回は、学校検診も多く可能になるよう活動できるメンバーが増えることを期待したい。

首都ポートビラにおいても、食生活の欧米化が進む中、歯磨きの習慣など予防への関心が薄いと JICA メンバーの保健指導教諭宮西さんがお話されていた。そして、首都での検診活動なども希望されていた。

首都ポートビラでの学校検診・予防活動の必要性やポートビラの総合病院 VCH (Villa Central Hospital) の現状を知ることは大きな意義があると感じた。

リーダー総括

歯科衛生士 大西 富子

今回も昨年同様参加者9名が、JDM の活動をより発展させる為にそれぞれの目的でバラバラの出発となり、それぞれのミッションを遂行した。

先発メンバー5名が、ヴァヌアツの歯科医療の現状をより知っておきたいとの意向があり、セントラルホスピタルの見学やキャンペーン行事に参加し、政府の方々や JICA メンバーとの交流があった。タンナ島に入ってから、6名のスタッフで一日約50名の患者様を治療又は、カウンセリングできたことは素晴らしいことだった。4日目以降 Dr 沢田、Dr 関根と合流、彼らは首都ポートビラで今後の JDM と政府との関わりについてミーティングを行った。

昨年のサイクロン復興支援金の使途、今年度20万本の歯ブラシやエンピツ・タオル・文房具などを寄付する計画、ヴァヌアツでの活動拠点をタンナ島から、エピ島、もしくはペンテコスト島に変更するかのリサーチのなどの沢山の課題で連日の会議浸けの3日間であった。合流後、8名のスタッフで Harborview 小学校での検診・ドネーションと Lenakel ホスピタルでの診療班とに分かれ活動、最終日まで、それぞれが MAX に活動した。家に帰るまでが JDM ! 全員が大きな病気や怪我もなく帰路につけた。今回もベストメンバーに出逢えて本当に楽しい活動ができた。毎日よく笑った。

※歯肉悪性腫瘍疑いの受診者は、Russel 氏を通して VCH での受診を依頼

診療日	12 日	13 日	14 日	15 日	合計
受診者数	51	26	48	50	175
抜歯	50	17	35	28	130
充填	12	12	28	10	62
SC	14	7	6	11	38
チェックアップ	7	0	1	0	8
人工歯装着	1	1	1	0	3
咬合調整	0	1	0	0	1
その他	0	0	0	1※	1



(上段左から)

瀬野 耕司 (歯科医師)
中島 勝彦 (ボランティア)
栗山 雅行 (ボランティア)

(中段左から)

落合 あかね (歯科衛生士)
金子 靖子 (歯科衛生士)
倉橋 朋子 (歯科衛生士)
長谷川 玲子 (ボランティア)
山崎 亜希子 (歯科衛生士)
野村 怜加 (ボランティア)
垣内 万智子 (歯科衛生士)

(下段左から)

大西 富子 (歯科衛生士)、中島 ミラ (ボランティア)、富田 真仁 (歯科医師)、崎山 順子、
崎山 克彦 (カオハガン島オーナー)、沢田 宗久 (歯科医師)

活動内容

11月19日

関西組(9名)13時20分に集合。予定より早くセブ空港に到着。名古屋組(1名)関東組(2名)フィリピン組(2名)迎えに来てくれたエマ・トッペル達と合流し、バス・船を乗り継ぎカオハガン島に到着。9時半に夕食をとり自己紹介、ミーティングを行った。

みんな明日からの診療に備え早めの就寝。

Dr 3名、DH 6名、V 5名の計14名でミッションに挑む。

11月20日

朝のミーティングを行い、バランガイホールへ。すでに、たくさんの人たちが列をなして待っていてくれた。直ちに診療準備を行い診療開始。沢田代表は、崎山さんとミーティングを終え、合流。

ラブラブでお祭りがあり午後の診療は、患者さんが少なく、ゆっくりしたものだった。メンバーは歯ブラシとフッ素を手し、教会近くで遊んでいた子供達のもとへ...

初めは嫌がり、逃げていた子供達だったが、メンバーに磨かせてくれるようになった。しばらく経つとバランガイホールに来てくれた。

鏡を持ってメンバーのチェックアップをする子まで出現!!

楽しいコミュニケーションの場となった。





11月21日

たくさんの患者さんでバランガイホールは大賑わいとなった。

年配者は、抜歯希望が多くクリーニングを勧めても断られることが多く胸が痛んだが、若い世代はクリーニングを希望される。ボランティアの栗山氏と中島氏は、島民たちと島で貴重な水を作る装置の制作実験を行った。結果は、残念ながら水を作ることは出来なかった。いくら湿度が高いといっても、やはり霧が出て水蒸気が飽和状態にならないと厳しいようだが、ボホール島から来ていた青年ジュンは自分の島は霧が多いので装置を作って試してみると嬉しいことを言ってくれた。夕食後にはマンゴー大会。真剣に品定めし、余った1個をかけ、じゃんけん大会が始まり女子メンバーは大盛り上がりとなった。

11月22日

最終日は、朝からカオハガンスクールとバランガイホールに分かれての活動となった。スクールでチェックアップを済ませた子供たちがやって来たため、最後までてんてこ舞いに、少し落ち着いたところで在庫整理・片付けを始め診療を終えることができた。

フリータイムでは、各自残り少ないカオハガンでの時間を楽しんだ。シュノーケリング組は、カオハガンの海の美しさに感動したようです。

午後3時からポンドクにて恒例の運動会。リレー・風船挟みリレー・3人4脚・玉入れ・綱引き、中でも3人4脚では大きな笑いを誘いました。各競技後には、歯ブラシのプレゼント。笑顔で歯ブラシを手渡す沢田代表の姿が忘れられない。集まった人たちは競技を応援し楽しみ笑顔で溢れていた。夕食後には、沢田代表がたこ焼きを振舞ってくれた。カオハガンハウスのスタッフと共にたこ焼きと最後の夜を楽しみ、一人ずつ感想を述べた。



11月23日

朝4時半に母屋に集合し、順子さんに『いってらっしゃい』と見送ってもらい島を出発。

空港のカフェにてみんなで朝食をとり、各自帰路に就いた。

今回の活動では、中島夫妻が通訳をしてくれた為、患者さんは安心して受診でき診療もスムーズに行うことができた。また、メンバーが全力で取り組み多くの治療を行うことができた。





受診者数				
島別	11月20日	11月21日	11月22日	島合計
カオハガン島	32	13	102	147
パンダノン島	34	16	7	57
パガンアン島	4	21	6	31
カブルアン島	0	5	0	5
クアミン島	7	5	4	16
ヒロトガン島	1	0	0	1
セブ島	0	1	0	1
サマル島	2	0	0	2
サンミゲル島	2	0	2	4
マリバコ島	0	0	2	2
日合計	82	61	123	266

治療内容				
	20日	21日	22日	合計
抜歯(本数)	107	121	82	310
CR(本数)	49	31	39	119
シーラント(本数)	0	0	73	73
スケーリング(人数)	11	18	5	34
フッ素塗布(人数)	0	0	46	46
チェックアップ(人数)	0	0	91	91
義歯修理	6	5	1	12

リーダー総括

富田 真仁



歯科医師3名、歯科衛生士6名、ボランティア5名の計14名で活動を行いました。関空出発以外のメンバーが多数いましたが、滞りなくマクタン空港で合流できました。

カオハガン島には崎山夫妻が滞在しており、いろいろお話する機会がありました。

20日朝より準備開始しましたが、機材のチェックリスト等が充実していたため、10時過ぎには診療開始できました。

今回、歯科技工士が参加できなかったため、義歯製作は行いませんでした。2月も参加未定なため義歯製作の予約は行いませんでしたが、義歯の修理依頼が数多く寄せられました。どの義歯も丁寧に使用されており、当地におけるJDMの長期活動をうかがわせるものでした。

歯科衛生士は6人と人数、キャリアともに充実したメンバー

であったため多くのクリーニングを行うことができました。一方マクタン島でのフィエスタと重なったため21日まで小学校が休校していました。活動終了日、カオハガン小学校での検診、媒体での口腔保健指導、ドネーションを行いました。歯ブラシ指導や子供の治療を十分に行うことができなかったのが残念です。

また、文化交流として運動会とは別に、空中の水分を集めて真水を確保する装置を試作しました。残念ながらカオハガンの湿度では成功しませんでした。やはり朝霧が出る気候でないと不可能のようです。

全体としては大きなトラブル等はなく、充実した活動を行うことができました。事前準備、現地の活動を十分に想定した機材など、参加メンバーと日本でのバックアップメンバーのおかげだと思います。

メンバー、現地スタッフに感謝して報告とさせていただきます



フィリピン共和国カオハガン島

2017年2月10日～15日



(上段左から)

倉橋 朋子 (歯科衛生士)
山崎 亜希子 (歯科衛生士)
中島 勝彦 (ボランティア)
坂口 智計 (歯科医師)
瀬野 耕司 (歯科医師)

(中段左から)

上崎 秀美 (歯科医師)
岡本 朋子 (歯科衛生士)
大西 富子 (歯科衛生士)
中島 ミラ (ボランティア)
今村 ちひろ (歯科医師)

(下段左から)

鳴田 さつ紀 (歯科衛生士)
坂口 裕一 (ボランティア)
菅原 勝人 (歯科医師)

活動内容

2月10日（金曜日）

関西からは8人、成田から1人、セブで3人、翌日成田から1人の13人での活動

関西は1時間遅れで出発、セブに20時頃到着。成田は直行便だったが出発遅れ、加えてトラブルでマニラを経由したため、大幅に到着が遅れ23時頃に到着。先着メンバーは、大西・中島夫妻を残しカオハガンに22時過ぎに到着、0時頃残りの4人が到着。長時間空港で待っていてくれた大西・中島夫妻に感謝。



2月11日

今回はJDM以外のゲストが14日まで来ないということで食事前にミーティングを、大まかに振り分けて診療することに。12人で朝からバランガイホールで診療準備をはじめながら、診療へと進めていった。近隣のパンダノン・パガンアン島の民や、ボホールやマクタンなど遠くからも治療に来てくれた。

風が吹いて診療のしやすい日でしたが、夜にますます風が強くなり20時頃山崎が到着、波が高く山崎の荷物が海に落ちるアクシデントもあったが、これでメンバー13人全員がそろった。



2月12日

全員がそろったので自己紹介し、診療に。毎回日曜日の午前は診療前から行列ができていたのだが、この日はいつもと違っていた。あとからわかったことだが、波が高く近隣の島々の舟では転覆する危険もあり来島できない方がたくさんいたとのこと。どうにかして診療所に来てくれた方々は、上下ずぶぬれでどれだけ怖い思いをして来てくれたのかと…治療を必要とされていたんだと、精一杯の治療をしようと全員で治療をした。セブ島西側からもカオハガン島まで治療に来るなど、JDMの活動が広く伝わっているようです。午後はのんびりとした診療となり、入れ歯の修理キット作るなどした。メインの発電機が故障で、予備電源のため何度か機器が止まることがあったが、メンバーはうまく対応して診療していた。夜には毎回恒例のマンゴーパーティを行った。今回不在の代表沢田が頑張っているメンバーの為にとスポンサーに。





(現地在住の中島ご夫妻ボランティアとして参加)

2月13日

診療所と併行して、10時過ぎにDH山崎・鳴田VO中島の3人が保健指導に。今回は噛むことの大切さをメインに指導し、歯みがきの集団指導をした。その後、歯科検診を行う。

今回初の試みとして、《いつもは小学校で歯科検診をしてバランガイホールに行くようにしていたが、その間に逃げる生徒たちが多く》バランガイホールの隣で1クラスずつ歯科検診をすることにした。すぐにバランガイの中に連れていくことができるので、今後もこの方法が良いのかもしれない。ただ、カオハガンの生徒たちは1枚上手で、この日小学校検診があると察知した生徒たちは、学校を休むという手段に出ていた。

一般診療に関してはこの日も波が高く多くの方々来島できなかった。今まで歯科医師の数が少なかったり一般診療患者が多く、生徒たちの治療ができないことが多かったが、一般患者が少ないというマイナス面はあったがその分生徒たちの治療や予防をすることができた。

明日からゲストが来るので、各自活動の感想などを話し合った。

2月14日

この日も風が強く波が高いためカオハガンの島民だけ治療をし、少しずつ撤収作業に入っていた。昼食時にはエマさんからドーナツの差し入れをいただいた。風の影響はポントグにも。いつも2-300



人の観光客がいる砂浜は閑散としていた。舟も出すのが危険なため、シュノーケルは中止に。各自のんびりと過ごし、夕方からポントグで運動会。みのむし競争・玉入れ・リレー・綱引きなど。JDMメンバーの裕一君が、リレーメンバーを選抜。裕一君もアンカーとなり大活躍！



2月15日

波が変わらず高いため、いつもの出発時間に出ると外洋の遠いルートになり危険なので荷物は前日22時頃にマクタンに運び、メンバーは2時に出発、波が高くしぶきが何度かかかったが船長の操縦で無事マ

クタンに。しばらく車が来るのを待って、市場に向かいDR 上崎におかゆを、DR 瀬野にパンをごちそうになり、中島さんの計らいで空港向かいのホテルのロビーで時間まで休み、関西・成田など岐路につく。



日	2/11	2/12	2/13	2/14	合計
抜歯	97 本	91 本	31 本	2 本	221 本
CR	11 本	3 本	25 本	1 本	40 本
セメント充填	18 本	2 本	75 本	5 本	100 本
スケーリング	19 人	25 人	11 人	3 人	58 人
チェックアップ			44 人		44 人
D 修理	11 床	1 床	1 床		13 床
抜糸			1 本		1 本
受診者数	63 人	58 人	106 人		237 人

リーダー総括

上崎 秀美

受診者数	
島別	人数
カオハガン島	57
(カオハガン小学校)	89
パンダノン島	15
パガンアン島	10
カブルアン島	4
クアミン島	8
コルトバ島	13
アグス島	11
マンダウエ市	1
マリゴンドン島	2
サンタローサ島	1
サバン島	1
サンビンセンテ島	12
キンダツパン島	1
ラプラプ市	1
スーバ	5

例年 2 月のミッションは 義歯作製を主にしていましたが今回は、技工士さんの参加がなく、一般診療、口腔ケアだけになりました。関空から 9 名、セブ合流 3 名、1 日遅れ 1 名 合計 1 3 名での活動でした。

土日の 2 日目までは天候もよく潮の具合を見ての周辺離島、マクタン、セブ本島からの来院もありました。

月曜 3 日目から風、波が強くなり 一般診療は少なくなりましたが、その分子供たちに専念できたようです。

検診が定着してきたのか、カオハガン島以外の島、地域からの来訪者も多かったように感じました。長い J DM の関与によって、治療内容の傾向、島内外の来訪者の傾向に変化が見られるようで島民の健康観のよい方向性につながってくれたらと祈るばかりです。

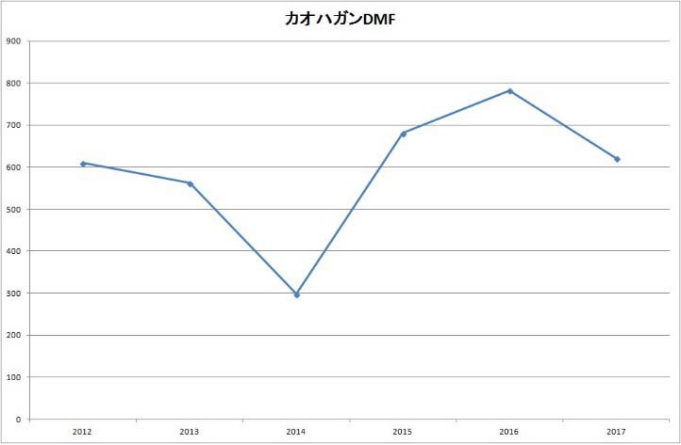
6 日間の行程を準備くださった理事、会員の皆さん、協力して活動していただいた参加者の皆さんに 感謝しつつ リーダー報告を締めくくります。

ヴァヌアツ共和国



ヴァヌアツ							
年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
合計 / DMF	251	275	261	155	191	255	151
合計 / D	251	269	248	146	187	246	142
合計 / M	0	3	13	6	2	8	7
合計 / F	0	3	0	3	2	1	2
検査人数	246	298	336	230	440	424	444
平均 : DMFT	1.0	0.9	0.8	0.7	0.4	0.6	0.3

フィリピン共和国カオハガン島



カオハガン						
年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017
合計 / DMF	610	562	298	681	782	621
合計 / D	339	429	256	552	708	541
合計 / M	93	22	9	93	25	10
合計 / F	178	111	33	36	49	70
検査人数	176	130	84	190	240	188
平均 : DMFT	3.5	4.3	3.5	3.6	3.3	3.3

学術報告

富田 真仁

ヴァヌアツ共和国の DMFT は 1.2(1994 年)でう蝕の罹患が少ないです。口腔衛生教育が普及しているためではなく、平均所得が世界的に見ても低いため甘味が手に入りにくい状態のためと考えられます。 J DMは10数年タンナ島にて活動しています。タンナ島の小学校の DMFT は 0.5 前後を維持しており、ヴァヌアツ共和国の平均と比較しても、かなり良好で安定してきていると思われます。ヴァヌアツ共和国は83の島で構成されており、歯科ボランティア活動が行われている島は限られています。今後は他の島での活動も視野に入れていくことが検討課題と思われます。

フィリピン共和国の DMFT 4.4(2003 年)は世界的にも高い数値です。(参考 日本:DMFT 1.1 , 2012 年)近年フィリピン共和国の経済発展は著しく、カオハガン島の平均所得も向上し、島内の雑貨屋で清涼飲料水、お菓子、アイスクリームの販売を行っています。一方で、カオハガン島の DMFT は近年 3.5 前後を維持しており、フィリピン国内の平均より良好な数字ですが横ばいになっています。 J DMによる長年の口腔衛生の啓蒙活動、フッ素塗布の成果が数字に表れていると思われます。 現地小学校などの協力を仰いでさらなる啓蒙活動を行う必要を感じます。

国内活動報告

2016年4月1日～2017年3月31日まで



日 付	内 容
2016年 4月 6日 (水)	生駒ロータリークラブにおいて ヴァヌアツ共和国での歯科医療奉仕活動について卓話 担当：沢田
6月22日 (水)	八尾市立竹渚小学校での授業 アメリカ、ニューヨーク州のロータリークラブ交換留学生ジャシュア君と共に国際理解を深める為の授業 (八尾市立竹渚小学校) 担当：沢田
6月24日 (金)	大阪梅田ソロプチミストにおいて ヴァヌアツ共和国での歯科医療奉仕活動について卓話 (帝国ホテル) 担当：沢田
8月 8日 (月)	大阪船場ロータリークラブにおいて ヴァヌアツ共和国での歯科医療奉仕活動についての帰国報告 (ホテル日航大阪) 担当：沢田
10月26日 (水)	八尾市立竹渚小学校での授業 5年生の生徒を対象に国際理解を深める為の授業 (八尾市立竹渚小学校) 担当：沢田
2017年 2月 1日 (水)	大阪フレンドロータリークラブにおいて フィリピン共和国での歯科医療奉仕活動に交換留学生のジャシュア・シェクター君(17才)がボランティアとして参加して活動を行った事についての卓話 (ホテル日航大阪) 担当：沢田
3月 1日 (水)	八尾市立竹渚小学校において ヴァヌアツ共和国での歯科医療奉仕活動についての授業 (八尾市立竹渚小学校) 担当：沢田

国際理解教育～ヴァヌアツ学習を通して～

八尾市立竹渚小学校
教諭 中島 由佳里

1、はじめに

竹渚小学校では、“子どもたちが生きる中で、大切なことを学んでほしい”という願いをもち、沢田先生、栗山先生の協力のもとで学期に1度「ヴァヌアツ学習」を行っている。だんだんと視野が広がり、自分の意見や考えをしっかりと持つようになる高学年が学習の対象で、今年度は5年生の授業を担当していただいた。“5年生から6年生へ、2年間かけてしっかりと子どもたちの心を育てる一助になれば・・・” 沢田先生のありがたいお言葉を受け、2年計画で「ヴァヌアツ学習」はスタートした。

2、学習を進める中で

事前学習として、インターネットを使い「ヴァヌアツ」について調べることにした。国の場所や様子などの情報がでてきたが、子どもたちは“オーストラリアの近くかな？でも、これはどの辺になるんだろう。”“島だらけで、どこがヴァヌアツなのか。”“写真から見ると、暑い国なのかな？”などと、はっきりとしたイメージがもてずに終わってしまった。その後、もう一度世界地図を用い、世界の国々の位置を調べたり、日本と位置を比べてみたりした。

< 1回目 >

6月22日（水）に初めてのヴァヌアツ学習が行われた。今回の授業には、沢田先生、栗山先生に加え、留学生のジャシュア君も参加し貴重な話を聞くことができた。学習内容は大きく以下の4点である。

- ・ヴァヌアツ共和国の国旗について
- ・JDMの活動の目的や歴史、活動場所について
- ・ヴァヌアツやフィリピンの暮らしの様子や人々の様子
- ・自分たちとのちがいについて考える

国旗の意味を知ることによってヴァヌアツの国の特徴や歴史に触れることができた。子どもたちにとっては、緑、赤、黒、黄の色使いがとても印象に残ったようである。肥沃な土地、そこに暮らす人々の生き方や誇りそして歴史が凝縮されていることに驚くと同時に、日本の国旗の意味も知りたくなったという感想も聞こえた。

JDMの活動の目的とあわせて、沢田先生がどうしてこのような活動をしようと思ったのか、これまでの人生を振り返りながら話をしてくださった。“自分は生かされた命である”“何度も死んでも同然の経験をしてきた。人はいつ死ぬかわからないなら、誰かのために生きる。”そんな強い信念に傾きながら聞く子どもたちも多くいた。

その後、JDMの活動や現地の人々の暮らす様子などの写真を見せていただき、歯科医療支援活動への理解



を深めた。子どもたちは、歯科医療というとむし歯を治すイメージしか持っていない。大切なのは治療だけでなく、衛生環境が整っていない暮らしにどのように援助していくかということだ。虫歯の予防を指導することや、生活用品に関する支援の重要性は5年生の子どもたちにも十分理解ができたようである。そして自分たちの暮らしが満たされていることも実感できた。

< 2回目 >

10月26日（水）に2回目の授業が行われた。今回の授業では、夏に行われたボランティア活動の様子を見せていただいた。1回目の授業の後、“自分たちが紹介する日本”というテーマで絵を描き、ヴァヌアツのレナケル小学校にプレゼントしていただいた。

- ・夏のボランティア活動の様子
- ・ボランティアに同行した小学生（5年生）の作文
- ・JDMの活動の動画

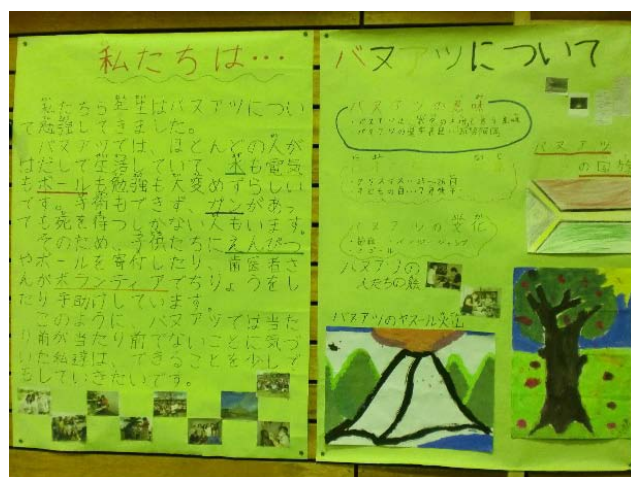
ボランティアの様子で一番子どもたちが心を打たれたのは、何時間もかけて口の中を治療しにきたおばあさんの話だった。舌に大きな腫瘍ができてしまったが、設備も整っておらずに今回の医療支援では腫瘍が取り除けなかった。子どもたちは、“おばあさんの写真を見たときはかわいそうと思ったが、話を聞くと仕方ないんだなと思った。病気も治ってほしいけど、少しでもヴァヌアツの暮らしが良くなって欲しいと思う。”と話していた。

他にも浜辺で運動会をしている写真や、こちらからプレゼントした絵のお返しを描いてくれている写真も見えた。国は違えども、自分たちと同じように元気に楽しそうに活動している様子が印象的で、多くの児童が感想文に運動会のことを書いていた。今回は“ぶんぶんごま”をプレゼントした。

< 3回目 >

3月1日（水）に5年生最後の3回目の学習が行われた。今回はあらかじめ、フィリピンでの活動の様子も教えてほしいと話していたこともあって、JDMの活動をふり返る学習となった。

- ・JDMの活動の3本柱
- ・フィリピンでのボランティア活動の様子
- ・子どもたちのボランティア活動



竹渕小学校では12月に、竹渕小ワンワールドという行事が行われている。そこで、5年生はヴァヌアツ学習のことを発表した。まずは、自分たちの学習内容を壁新聞にまとめ、ヴァヌアツのクイズを作った。ヴァヌアツの場所や、国の特徴（島国、火山が多い）ことなどをクイズにしたが、低学年も楽しみながら参加してくれていた。この行事に向けた活動の中で、発表をするだけでなく自分たちができることも発信していこうと考えた。鉛筆や消しゴムなどの文房具を集め、自分たちも物資に関する支援のお手伝いをしようというのである。



3回目の授業の最後に、集めた文房具を手渡すことができた。お家の人の協力もあって、未使用の鉛筆や赤鉛筆などが多く集まった。後日、子どもたちからは“鉛筆入れる箱ないやん！これからも続けてやろうや！”“6年になったらもう一回始めやんな！”という声上がるようになっていた。

3、1年間の学習を終えた児童の感想

- ・1学期はヴァヌアツの国旗の意味を知ったことが印象に残っています。緑は国旗の豊かさ、赤は人間の血や太陽、黒はメラネシア人を表しています。国旗の意味を聞いて、ヴァヌアツのことがよく知れました。2学期はヴァヌアツの子どもたちと物々交換をし、交流できました。外国文化に親しむ会では、新聞、クイズ、募集など、ヴァヌアツを深く知る活動ができました。3学期はフィリピンについて勉強し、鉛筆や消しゴムなどを集めて、寄付をしました。私たちがヴァヌアツ学習をしてきた中で、日本は安全にくらせる方だから、もっと他の国のことを知り、協力していきたいです。
- ・1学期はヴァヌアツのことをよく知るだけでなく、住んでいる人々の大変さを知ることができました。2学期は写真や動画を見たり、ぶんぶんごまを作ってヴァヌアツの子どもたちにあげたり、絵をもらい、文化のちがいに気づけることができました。外国文化に親しむ会では、ヴァヌアツのことやボランティア活動のことを楽しみながら教えることができ、すごく楽しかったです。3学期はフィリピンのボランティア活動について教えてもらいました。ヴァヌアツとはちょっとちがいが、髪や顔などがちがっていました。運動会ではフィリピンの土地を生かし、砂浜でしていました。ぼくたちはやったことがないので、一度やってみたいと思いました。

4、終わりに

学習を始めた頃は、ヴァヌアツってどこにあるんだろう？ボランティアって何をするんだろう？と疑問だらけの子どもたちだったが、1年間の学習を経て少しずつ変化が見られた。“6年生では何ができるだろうか。”“何を集めたら役に立つだろうか。”そんな風に話す子どもたちの内面には、人のために何かをしようという種が芽を出している。6年生になっても、“生きる中で、大切なこと”を学ぶ機会として、ヴァヌアツ学習を続けていきたいと考えている。



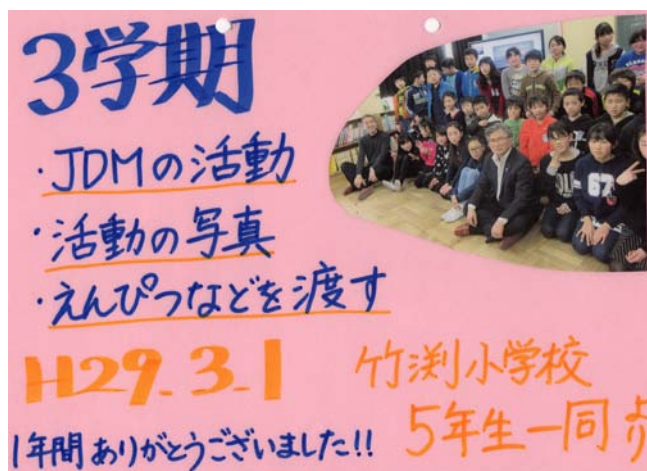
国際文化交流

国際文化交流としてヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国カオハガン島そして日本の子供たちの絵画交換や小学校での授業を通じて両国の文化の交流を行っています。

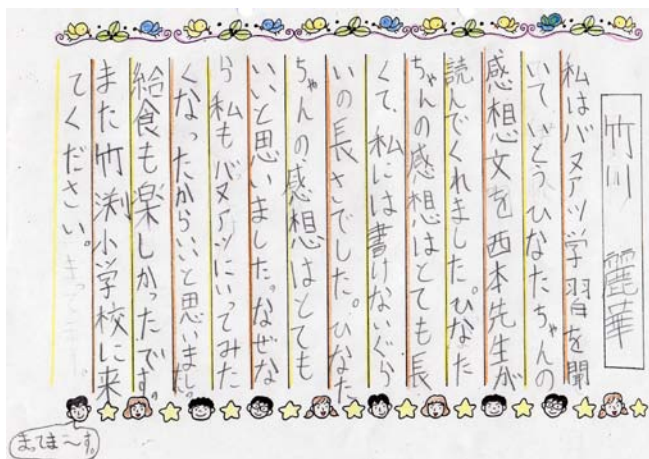
ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国での文化交流



大阪府八尾市立竹渕小学校での文化交流



生徒の感想文



参加者感想文

伊藤 ひなた（ボランティア）

ヴァヌアツ共和国歯科医療ボランティア活動体験記



私は、東京に住む小学校5年生の女の子です。

お父さんが歯医者として去年からヴァヌアツ共和国での活動のお話を聞いていました。最初は、トイレの汚さやごはんの違いなどが心配で行きたいと思う気持ちになりませんでした。

私は、小さい時に喘息で入院を繰り返し、独りで寂しい思いをした経験があります。

そして、今はすっかり喘息も治り元気に過ごせています。そういった経験やおとうさんの活動を知ること、心配事よりも興味の方が強く心の中から湧き出てきました。そして行くとなったら、思いっきり活動を楽しみ、ヴァヌアツ共和国の事やそこに住む子供たちのことを知りたくなりました。

行く前には、お父さんと一緒に本屋でヴァヌアツの言葉ビスラマ語の本を探してみたけど、ありませんでした。ヴァヌアツ共和国のことが書いてある本など全くありませんでした。

インターネットでいろいろとヴァヌアツ共和国のこと調べてみたら、ブルーラグーンというターザンロープでジャンプができる楽しいところもあることを知り楽しみでいっぱいになりました。

首都ポートビラに到着してメラネシアンホテルに行ったらトイレもキレイだし、ご飯も美味しいので心配事は無くなり、ブルーラグーンに行った時には、ターザンロープで飛び込んだりして、思いっきり遊んでとても楽しかったです。

タンナ島に行ったら、活動が始まり患者さんの笑顔や病院の前の子供たちと一緒にサッカーやキャッチボールをして一緒に遊んで楽しかったです。

ランチも美味しかったです。

病院でのお手伝いも行い、最初はドキドキしたけど、だんだんと慣れてきて、覚えてた英語で話したりしました。患者さんが笑顔で喜んでくれたことがとても嬉しかったです。

検診と文化交流で小学校を訪れました。

私が、通っている小学校とは、大きく違い、原っぱの真ん中にあり、テントの中に教室があることにびっくりしました。だけど、自然いっぱい、空が大きく、夕日もキレイだし、満天の星空がとっても羨ましく思いました。

ヴァヌアツ共和国の国歌をみんなで歌ってくれて、しっかりと歌えていることにもびっくりしました。

同じ5年生の女の子と話しました。私が、好きな食べ物をトマトとキュウリというと、学校の裏の畑を案内してくれて、畑で育てているコーンやトマトなどを見せてくれました。そこで、なっていたキュウリを1本プレゼントしてくれました。

検診のお手伝いをしている時に、いろんな子供たちに後ろ髪を触られたり、引っ張られたりしました。最初は、少しびっくりしました。

ヴァヌアツ共和国の人達は、ストレートヘアに憧れているようです。それで珍しいようで私のストレートヘアに触りたがるのがわかりました。

宿舎では、メンバーの皆さんが助けてくれたり、日本食を作ってくれて美味しく、楽しく過ごせました。最後のタンナ島の夕食の時に小学校でもらった

キュウリを味噌をつけて食べました。とっても美味しかったです。

約2週間の旅でしたが、とても楽しく、いい毎日を過ごすことができました。そして、この経験を活かして毎日を大切に、楽しく過ごしていきたいと思いました。またいつか、大きくなったらこのヴァヌアツ共和国を訪れて一緒に遊んだ友達と再会したいと思いました。

東京都在住 桐朋小学校 5年東組 伊藤 ひなた



落合 あかね（歯科衛生士）



実は何年か前に参加しようと手続きまでしましたが、行けなくなり、今回やっと念願叶って参加する事が出来ました。

きっかけは、フィリピンが好きで何度も訪れた事もあり単純にフィリピンで仕事をしたいと思いインターネットで探していたところ、こちらのプロジェクトを見つけました。

実際に参加してみて、まずは大好きなフィリピンの人々のために微力ながらも自分の経験を生かした仕事が出来た事は、一つ夢を叶えたと自分自身に自信を持ち直しました。

今まで経験したことのない環境で初対面の方たちとどのようにチーム医療を取り組んでいくのか不安もありましたが、初日はそんな不安でオロオロする暇も無くやる事も沢山あり、同時に患者さんへの対応や処置も常に平常心を保ちながらこなさなくてはなりません。それでも先生や皆様のとにかく明るくテンポの良い仕事ぶりに、シビれつつ良い緊張感を持ちながら仕事が出来ました。

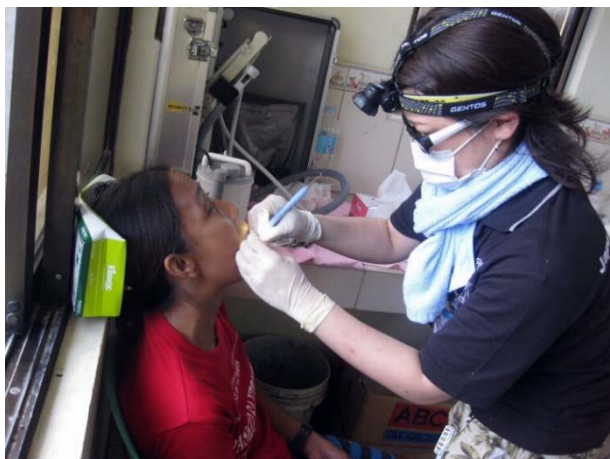
また、僻地での歯科治療において、知識や技術の足し引きが出来るくらい今後の自分のレベルをどこに目標を置くかを考えさせられました。

ボランティア活動は初めてですが、出会った全ての人々に私は助けられました。JDMが長い間築き上げた島の人々との信頼関係と参加メンバーにもわかるように、この活動は give と take だけでなく share も加わって成り立っていると思いました。

本当に素晴らしい経験になりました。

この経験と皆様との出会いは宝物です。ありがとうございました。

金子 靖子（歯科衛生士）



海外でのボランティア活動は初めてで、不安だらけでしたが、みんなに親切にしてもらって、5日間ずっと楽しく過ごすことができました。

それぞれのメンバーが率先して行動し、助け合いながら最初から最後まで活動していて、そんなメンバーの一員になって共に過ごせたことが本当に幸せです。カオハガン島は想像していたよりももっと綺麗で過ごしやすく、食事は毎日とても美味しく、スタッフのみなさんやゲストの人々との温かい交流もあり、この島に滞在できたこと自体も大切な思い出になりました。

歯科衛生士としては、現地ならではの処置や予防の考え方、

現地の人とのコミュニケーションを実体験し、自分の知識や技術の足りなさ、言葉の壁も痛感しました。

もっともっと勉強して自分にできることを増やし、成長して絶対にまた参加したいです。

今回参加したことは本当に貴重な経験となりました。ありがとうございました！





『最初で最後にしたくない』

2016年11月5日間のボランティア活動を終え、島を離れる時に私の中にはそんな気持ちが生まれていました。

カオハガンで出逢った子どもたちは笑顔がキラキラしていて、人懐っこい子もいれば照れて隠れてしまうような子もいて、言葉の壁こそありましたが、保育士をしていた私にとって日本の子どもたちと変わらない魅力溢れる存在でした。ただ、口腔内は日本の子どもたちとは全く違いました。一生大切にしないといけないはずの永久歯を10歳にもならない子が抜歯を必要とする状況になっていたり。すでに数本を抜歯していたり。

学校での歯科検診、歯磨き指導に参加させていただきましたが、健康な歯が綺麗に生え揃っている子どもは片手で数えられるほどの人数でした。昼食としてなのか、昼にお菓子を食べて過ごす

子どもや、お菓子の袋が山のように捨てられたゴミ箱も見ました。食生活にも問題、歯磨きが習慣化されていないことにも問題が。その生活や習慣は簡単には変えられない。それでも、何度もカオハガンでのボランティアをしている歯科衛生士の方から話を聞くと、シーラントした歯が1年後も健康だったり、歯磨きの歌を覚えて歌ってくれていたり、子どもたちが歯を大事にすることに興味をもってくれているから、簡単には変わらないけれど、少し意識が変わっていることがやり甲斐になると。いつでも治療が受けられるわけではない島だからこそ、虫歯の痛さを知った大人が沢山いるからこそ、子どもたちの歯を守るために生活習慣を大きく変えて欲しい。その為に、子どもたちとの触れ合いの中で自分に何が出来るのか、課題にしたいです。

朝、目が覚めると波の音と鶏のコケコッコー！の挨拶が聞こえてくる。すれ違うと「マーヨーブンターク（おはよう）」と挨拶してくれる島の人たちがいる。電気がなくても、水しか出ないシャワーでも、それは島に生まれた人たちにはごく普通で、何も不便でもなく、それを不便に感じる自分の方が不便な人間のように感じました。何より犯罪が全くないと崎山さんに伺って、凄いなあと思ってしまいました……。きっと、犯罪がないことが普通なのに、犯罪がないことを凄いと感じる日本人。

日本も、カオハガンもお互いに見習うところがあって、カオハガンの魅力を2度3度と活動に関わっていく中で見つけて行きたいと思いました。

ボランティアは楽しくないと駄目やからね！と楽しませて下さった沢田先生をはじめ、歯科治療は全くの無知だった私に丁寧に基本を教えて下さった歯科医師、衛生士の皆さん、JDMを教えて下さった栗山さん、良き人たちとの出逢いに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



11月カオハガン感想文

2016年11/19—11/23まで歯科海外ボランティアのためにフィリピン・カオハガン島に行って参りました。

今回ボランティアに参加したきっかけは、友達の栗山さんのお話を聞いて、私に何かできる事はないかと参加させて頂きました。不安がいっぱいで日本を離れ一日かけてカオハガン島に到着しました。船からは、夜行虫が青く光りとてもきれいでした。一時間ぐらい船で、セブ島からカオハ

ガン島に到着しました。夜遅いのに、私達の為に食事を用意して、みなさん歓迎してくれました。

カオハガンでは現地の食事が素晴らしく美味しくて、毎日食べ過ぎるぐらいでした。二日目から早速活動開始です。

私は歯科助手のアシスタントをさせて頂きました。口腔内カリエスだらけでビックリしました。

みんな歯磨きの習慣がないのと、現地には歯医者さんがいないのです。

子供達もずーっと甘いものをひたすら口にしてます。大人達は抜歯を何本もしてました。

カオハガンでは、歯医者さんがいないので、JDMのス

タッフが、来るときしか歯の治療法がないのです。

大体の患者さんは抜歯をしていました。

引き潮の時に、離島から歩いてカオハガンに来て治療を受ける患者も多数いました。

抜歯を何本もする患者を見て心が痛くなりました。

でも治療を終えた患者さん達は笑顔で嬉しそうでした。痛みから解放されたからです。

私は日本がいかにも何事にも恵まれている国とつくづく感じました。

最終日は少しフリーの時間を頂きシュノーケリングをしました。海の美しさに感激しました。

そして地元の子供達と運動会をしました。

子供達は大喜びでした。私も楽しく子供達とはしゃぎました。

最後になりますが、JDMの方々色々お世話になりました。

私はこれから毎年参加させて頂きたいと思います。

私は歯医者さんでもなければ、衛生士さんでもないです、

でも、私は私なりに子供達、カオハガンの人達に何か教えられるものがあれば、ずーっと教えて行きたいと思います。そしていい出会いに感謝です。

ありがとうございました。





まだ歯科衛生士学校に在学していた頃、歯科助手のアルバイトをしていました。その時に日本語が全くわからない外国人の方が来院されました。主訴は「歯が痛い」とのこと。日本に来たのは数日前らしく、自分の全く知らない土地で、さらに歯医者だなんて、彼女の気持ちを考えると、怖くて不安でたまらなかったと思います。そこに歯科医師の先生は、「虫歯です。」と一言放ち、もちろん理解できず、眉毛を八の字にして頭をかしげている彼女に、先生は頭ごなしに「虫歯です！カリエス！わかりますか！？カリエス！」と怒鳴っていました。言葉が通じなくて、イライラしてしまったのかもしれませんが。結局彼女は訳もわからずその日は治療は断念、泣く泣く帰り、もちろんその後来てくれることはありませんでした。その光景を目の当たりにし、何も出来なかった自分に悔しさと不甲斐なさを感じました。言語が通じなくても、自分にできることはあったのではないか。彼女が通院してくれる方法はあったのではないか。資格をとった後、そんな思いを胸にボランティアに参加することにしました。いざ活動を始めると、人の役に立ちたい、助けたいという意味ももちろんあったのですが、それ以上に私自身がすごく楽しむことが出来て、カオハガン島の子どもたちやJDMの皆さんの笑顔や優しい気持ちに触れることで、癒され、心が温まり、涙することもありました。こんな素敵な経験が出来たことを誇りに思い、今後の私の人生において大きな財産になりました。人との出会い、ご縁に感謝します。

歯科衛生士になってよかったと心から感じています。ありがとうございました。

(写真下：以前にJDM参加者が作成した媒体)



6日間のフィリピンの旅



僕は、2月10日から6日間フィリピンのカオハガン島へパパのボランティアについて行きました。初めての海外の旅でしたので、すごくドキドキしてその日を迎えました。フィリピンでのボランティアで歯科医師免許を持っていない僕は、何ができるのかと思い色々日本で考えていました。例えば、患者さんの誘導の声かけや荷物運びなどどうしたら人の為に何か役に立てることを思っていました。

実際現地では、受付の仕事をお手伝いすることができて役に立てたかどうか分かりませんが、一生懸命しました。

フィリピンの生活は、普段日本では蛇口をひねれば水が出る。スイッチを入れれば電気がいつでも点く、もちろんお風呂もいつでもたっぷりの水を使用している日々を送っていた僕には、驚かされる生活でした。

一番は、電気です。夜になると真っ暗でかい中電灯が必要でした。ただ、日本と違い夜空は、宝石をまいたのかと思うほどきれいで感動しました。

二番目は、お風呂です。水がとても大切で毎日お風呂に入っていたのですが、6日間の中で2回入らせて頂きました。そのお風呂もドラム缶に海水を入れて下から焚いて入るというもので、日本ではなかなか味わえない経験でしたが、大切な水をはり、お風呂を用意してくれたことがありがたくとても気持ちの良いものでした。そして僕は、現地で友達もできました。たくさんできましたが、その中で仲良くなったのがエレキとジャスティです。遊びは主にボール遊びや鬼ごっこなどで日本では、友達と遊ぶとなると1つの部屋に数人集まり1人ゲームをしながら攻略の情報交換をしていた僕は、本当に健康的で体を動かすことがなんて楽しいと思いました。かけがえのない外国の友達が本当にうれしかったです。

世界には、まだまだ医師が必要な国があることを知りました。僕は今回フィリピンでしたが、色々な国々へボランティアをしている先生方やそれを支援している方々を目のあたりにできて、本当に幸せでした。

僕もいつか役に立てる大人になりたいと思いました。またご縁があれば、是非行きたいと思います。

僕にフィリピンへ行くチャンスくれたパパにも感謝しています。みなさん、パパ本当にありがとう。僕も力になれるようにこれからも頑張ります。



カオハガン島・歯科ボランティアに参加しての感想



海外渡航経験も、ボランティア活動経験も乏しかったのですが、歯科医師という職業を普段の診療以外のことにも役立てたいという思いから、JDMの活動に参加させていただきました。フィリピンでのボランティアというと、もっと過酷な状況での活動というイメージでしたが、きれいな海に囲まれ、笑顔の人々にあふれた小さな島で、とても楽しい6日間でした。島の子どもたちとは汗まみれ砂まみれになってたくさん遊びました。島のあちこちで僕の姿を見かけると、ファイティングポーズをしてきて、そこから「戦いごっこ」が始まります。チョップやパンチの応酬から追いかっこ、捕まえた子を持ち上げて振り回すと、別の子が「アコ！アコ！（私も！私も！という意味？）」と言いながら持ち上げてほしいとやって来ます。そこからは息が切れるほど、何人も持ち上げてはグルグルまわしたり、おんぶしたりと、体力は消費しましたが、たくさん元気をもらいました。とても楽しい6日間でしたが、当然ながら、歯科の活動は真剣に行いまし

た。これまで長年積み重ねてこられたJDMの活動に汚点をつけないよう、他のメンバーの方々の足を引っ張らないよう、緊張感をもって取り組みました。事前会議等で聞いてはいたものの、歯根のしっかりした第一大臼歯を同時に3本抜いたり、まだ若い女性の前歯を3本抜いたりしたときは、本人の希望があるとはいえ、はじめは心苦しかったです。こちらが心苦しさを感じているのにもかかわらず、抜き終わると、安心した顔でお礼を言って帰られるので、複雑な心境でした。それだけ痛いのをずっと我慢してきたのだろう、歯の痛みから解放させるのも歯科医師の役割のひとつにちがいない、と自分に言い聞かせながら、次々やってくる人たちの抜歯を行いました。歯を大切にするかどうかは、口腔保健意識だけではなく、文化や生活習慣、環境なども関係してくると思われそうですが、長い年月も必要なのかもしれません。島で遊んだ子どもたちが将来、日本からやってきた歯医者と遊んだことを思い出してくれて、自分の子どもの歯に関心を持ってくれたら、いいなあと思いました。

海外活動参加者募集のお知らせ

2017年度海外活動の参加者を募集しております。参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっております。現地でのお仕事（活動）は、多種多様でたくさんありますので、どなた様でもご参加可能です。皆様のご参加をお待ちしております。

当会ホームページ上でも記載されております。

ホームページ：<http://www.japandentalmission.org>

ヴァヌアツ共和国

チーム名	日 程	締切日
7月タンナ島	2017年 7月 8日～17日	2017年 6月20日

フィリピン共和国

チーム名	日 程	締切日
11月カオハガン島	2017年11月18日～23日	2017年10月20日
2月カオハガン島	2018年 2月10日～15日	2017年12月25日

参加費用

ヴァヌアツ共和国

フィリピン共和国

科 目	金 額	金 額
航空運賃*1	約25万円前後	約8万円前後
滞在費	現地滞在費、一部JDM負担	
海外旅行傷害保険代	希望者のみ各自負担	
ユニフォーム代*2	3千円	3千円
合 計	約26万円前後	約9万円前後

*1：航空運賃は、時期により変動します

*2：持っていない方のみ

ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿 革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	ヴァヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
	現在に至る

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

●ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。

また、病院の周辺の小・中学校に行き、歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

●フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。

島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い、歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

●絵画交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い、文化の交流を図っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とヴァヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

3. 生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

●文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えています。

●運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4. 青少年育成

精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うためのキッカケ作りをするお手伝いをしています。

協賛企業

- (株)アド・ダイセン
- アベ・ラベリング(株)
- オーエム歯材(株)
- 大阪歯科大学 口腔衛生科
- 大阪市立開平小学校
- 大阪市立昭和中学校
- 大阪市立玉造小学校
- 大阪市立中大江小学校
- 大阪市立南大江小学校
- 大阪市立南小学校
- 大阪船場ロータリークラブ
- 大阪南太平洋協会
- 大阪府歯科医師会
- 関西国際交流団台
- 関西学院中学部
- 清原(株)
- 共栄社化学(株)
- クリエイト(株)
- グラクソスミスクライン(株)
- 国際ソフチスト大阪一梅田
- コクヨS&T(株)
- サクラクレパス
- 笹野電線(株)
- 澤田歯科
- サンスター(株)
- (株)システムつう
- (株)ジャックス
- シンク(株)
- 甚田会計事務所
- スポーツネットワークジャパン
- 住之江歯科医師会
- スモカ歯磨(株)
- セイコーエプソン(株)労働組合
- セキセイ(株)
- 全日本ブラシ工業協同組合
- 大日本除虫菊(株)
- 太平工業(株)
- 太洋旅行(株)
- 嶽北歯科
- タナベスポーツ(株)
- 株式会社ツカサ
- つるや(株)
- トキワ(株)
- 有限会社トリビ
- ナカガワ(株)
- 南総工業(株)
- 西澤歯科医院
- ニッタハウス(株)
- 日本歯科医師会生涯研究課
- 根来(株)
- 白水貿易(株)
- ハグルマ封筒(株)
- (有)ハマダデンタルサプライ
- (株)林
- 樋口歯科医院
- 平田歯科医院
- 不二印刷(株)
- ベリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
- 蛍印刷(株)
- モリタ(株)
- 八尾市立西山本小学校
- 八尾ロータリークラブ
- 八千代オート(株)
- 山貴産業(株)
- ユー・エフ・オー(株)
- 陽春園(株)
- 吉竹歯科医院
- DENTRADE
- Greenpath Corporation
- JICAヴァヌアツ支所
- NPOセンター
- TKX(株)
- UHA味覚糖(株)

本年度ご寄付を頂いた皆様

- 赤木 宗成
- 伊豆 周久
- 大阪船場ロータリークラブ
- 大西の会
- 沖 真一郎
- 斧原 周子
- 梶岡 之誠
- 金本 裕光
- 片岡 清夫
- 工藤 武男
- 佐々木孝子
- 笹野 順一
- 沢井 武清
- 澤田歯科
- 沢田 宗久
- 菅原 勝人
- 辻井 博
- 内藤 吉子
- 西 京子
- 西村 知子
- はばら歯科
- 藤本 茂子
- 舟知 節子
- 古森 淳一
- 堀田 節子
- 宮崎 キミコ
- 森本 ふみ子

皆様の多大なる御支援御協力を頂き誠にありがとうございました。

2017 年度活動予定

海外活動（ヴァヌアツ共和国・フィリピン共和国）

・ヴァヌアツ共和国



活 動 地：タンナ島

日 程：7月8日～17日

人 材：歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、ボランティア

募集人員：15名程

事前会議：6月24日（土）16：00～（予）

・フィリピン共和国



活 動 地：カオハガン島

日 程：① 11月18日～23日

② 2月10日～15日

人 材：歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、ボランティア

募集人員：15名程

事前会議：① 10月21日（土）16：00～（予）

② 1月20日（土）16：00～（予）

国内活動

・ロータリークラブ、他団体や小学校などで講演予定



理事紹介

代表理事

沢田 宗久 澤田歯科 院長（歯科医師）

副代表理事

栗山 雅行 ベリテック・アイニックス・ベンチャーズ(株) 代表取締役（ボランティア）

理 事

河内 光明 澤田歯科 （歯科技工士）

上崎 秀美 （歯科医師）

田中 良明 上り口歯科医院（歯科技工士）

小西 あゆみ 石井クリニック 歯科医院（歯科衛生士）

吉井 照子 （ボランティア）

富田 真仁 富田まひと 歯科 院長（歯科医師）

島 猛 上り口歯科医院（歯科技工士）

今村 ちひろ （歯科医師）

倉橋 朋子 塩井歯科医院（歯科衛生士）

監事紹介

監 事

甚田 隆康 甚田総合会計事務所 所長

北野 克己 株式会社北野商店 代表取締役

新任の挨拶



この度、JDM（ジャパン・デンタル・ミッション）の監事に就任致しました北野 克己と申します。

私は、斎藤 満様と同じ大阪船場ロータリークラブに所属しています。ロータリーに所属してから長年、JDMをサポートして参りました。

これからも、JDMの発展の為、微力ではありますが、尽力して参りますので宜しくお願い致します。

訃 報

2017年2月1日にJDMの監事をして頂いていた斎藤 満様のご逝去されました。

ご生前のご厚情に深く感謝すると共に、故人のご功績を偲び、慎んで哀悼の意を表します。

斎藤 満様は大阪船場ロータリーのメンバーで持ち前のロータリー精神で奉仕に対して熱心に取り組んでおられました。

JDM発足当時より監事をして頂いていました。JDMの発展の為に随分ご尽力を注いで下さいました。会員一同心より感謝申し上げます。

尚、後任と致しまして、JDMの発足当時より会員である北野 克己様にお願い致しましたので宜しくお願い致します。



2017年6月17日発行 発行者：NPO 法人ジャパン デンタル ミッション

〒542-0085 大阪市中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 澤田歯科内

TEL : 06-6252-0118

URL : <http://www.japandentalmission.org> E-mail : info@japandentalmission.org

*本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを強く禁じます。

